

# 平成 31 年度継続課題に係る継続評価書

研究機関 : 株式会社コトバデザイン、NEC ソリューションイノベータ株式会社  
研究開発課題 : 高度対話エージェント技術の研究開発・実証  
研究開発期間 : 平成 30 ～ 32 年度  
代表研究責任者 : 栄藤 稔

■ 総合評価 : 適(適／条件付き適／不適の3段階評価)

(評価点 18 点／ 25 点中)

## (総論)

事業化への強い意欲があり、目標達成に向けた細心な計画と実行が進められている。更に初年度は計画を一部前倒して実施する等、積極的な取り組みが評価できる。

次年度は OSS 公開によるコミュニティ形成が大きな課題と思われるが、同様の積極的な取り組みを期待したい。更に今後も対話エージェント市場の一層の活性化や他要因の急激な変化がある可能性が高いので、迅速な対応を行い本プロジェクトの目標を達成する必要があるものと考えられる。

また、平成 31 年度の予算の減額に対して適切に対処したところも評価できる。

## (コメント)

- 着実に目標を達成しつつある。平成 31 年度の予算の減額に対して適切に対処した。
- 事業化への強い意欲があり、目標達成に向けた細心な計画と実行が進められている。
- 初年度は計画を前倒して実施する等、積極的な取り組みが評価できる。OSS 公開によるコミュニティ形成が次年度の大きな課題と思われるが、同様の積極的な取り組みを期待したい。
- 対話エージェント市場の急速な活性化に対応して、音声対話プラットフォームの実サービスへの適用を当初の計画より前倒しするなど工夫が見られるが、今後も対話エージェント市場は一層急激な活性化をする

可能性もあり、また他の要因についても急激な変化がある可能性が高いため、迅速な対応を行ない本プロジェクトの目標を達成する必要がある。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況及びアウトカム  
目標の達成に向けた取組みの実施状況

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

当該年度における研究開発目標である音声対話プラットフォームの設計・開発は達成する見込みであり、更に開発コミュニティ形成・実用化に向けて計画を前倒して一部実装を開始したことは高く評価できる。

(コメント)

- 音声対話プラットフォームの基本部の設計・開発を達成する見込みである。
- 事業化に向けて開発コミュニティ形成に早期に着手するため実装を前倒してエンジン部分を完成させた。
- 当初の目標を達成しただけでなく、計画を前倒して行っており、十二分な進捗がある。
- 計画通り進んでおり、コミュニティ作り・実用化については前倒して進めている。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

研究開発項目1の各項目間の費用配分は当初の予算計画から変更されているが、総額において変更はなく、研究開発項目2についても当初の予算計画どおり使用されている。項目の間で研究資金の配分を変更して能率的な予算の執行を行ったところは評価できる。

(コメント)

- 項目の間で研究資金の配分を変更して能率的な予算の執行を行った。
- 研究開発項目1の各項目間の費用配分は当初の予算計画から変更されているが、総額においては変更はなく、研究開発項目2についても当初の予算計画通り使用されている。

### (3) 研究開発実施計画及びアウトカム目標の達成に向けた取組み

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

#### (総論)

移動・介護・ゲーム等の出口企業へのヒアリングを通じたニーズ抽出、事業化を意識した実証実験の検討、開発者コミュニティ育成準備など、システム開発以外の部分も戦略的に進捗させており、計画の達成が期待できる。

また、対話エージェント市場の急速な活性化に対応して、音声対話プラットフォームの実サービスへの適用を当初の計画より前倒しするなど工夫が見られるところを高く評価できる。

#### (コメント)

- 移動・介護・ゲーム等の業種の企業にヒアリングを行い、対話エージェントのニーズを抽出した。
- 事業化領域の選定、事業化につながる実証実験、開発者コミュニティ育成準備など、システム開発以外の部分にも注力して進捗させており、計画の達成が期待できる。
- コミュニティの早期形成に向け、その戦略がある。
- 事業化に向けた取組みにおいて、対話エージェント市場の急速な活性化に対応して、音声対話プラットフォームの実サービスへの適用を当初の計画より前倒しするなど工夫が見られる。

### (4) 予算計画

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

#### (総論)

平成30年度実績及び平成31年度実施計画に基づいた妥当な計画となっている。また、予算の減額に対応して有効な予算計画を策定したところは評価できる。

#### (コメント)

- 予算の減額に対応して有効な予算計画を策定した。
- 妥当な計画と考えられる。
- 予算の減額に伴う計画の見直しを行い、画像による運転者の感情状態推定の研究開発を行わないことからその部分の予算は0となっているが、それ以外の部分については、妥当な予算が組まれている。

## (5) 実施体制

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

### (総論)

各担当会社、ビジネスプロデューサーの役割分担が適切であり、今後も本実施体制で事業を推進することが期待される。また、予算縮小に対する人的対応をしているのも評価できる。

更に運営委員会を適切にまとめており、事業化出口として考えられるプレイヤーを多く集めているところも高く評価できる。

### (コメント)

- 運営委員会を適切に運営している。予算を工夫して研究分担者を追加した。
- 大幅な予算削減に対し、人的体制を工夫した。
- 運営委員会に事業化出口として考えられるプレイヤーを多く集めている。予算縮小に対する人的対応をしている。
- 各担当会社、ビジネスプロデューサーの役割分担が適切であり、今後も計画通り事業が進捗するものと考えられる。